

1. 目的、動機

- (1) 目的 泡瀬干潟にはどんな生き物が生息しているのか
- (2) 動機 ぼくは、この研究テーマは、泡瀬干潟の生き物たちが埋め立てられることによって死んでしまったらもう見るできないので、現在どのような生き物が住んでいるのか調べてみることにしました。

2. 方法、内容

(1) 方法

- ①現地へ行き、海水が足首くらいまでで、砂を熊手やスコップでほったりしました。
- ②岩の後ろとかにも貝がくっついていたりするので、ひっくりかえしてみたりしました。
- ③見つけた貝を家に持って帰り、腐らせてから、図鑑で名前を調べました。
- ④図鑑で調べた生息は分布などと照らし合わせてまとめました。

(2) 内容

悩んだことは、どのように研究をしたらいいのか悩んだので、海洋博センターの専門の人にアドバイスをもらいました。紹介された内容は、以下の通りです。

1. 『貝の図鑑 採集と標本の作り方』という本はわかりやすいのでこの本でやってみたら？と、アドバイスされました。
2. 砂浜と海辺で分けて、調べてみたら？と、アドバイスしてくれました。
3. 調べている貝が本で見つからなかったら、違う本で調べる。
4. ざるを使って、小さい貝はとる。

3. 結果

調べてみると、とても多くの生き物たちがすんでいました。見つけることができた生き物は、リュウキュウヒバリ、分布は紀伊半島以南から熱帯西太平洋、イソハマグリ（分布は房総半島以南）、ホソスジミナミガイ（分布は八丈島、紀伊半島以南、熱帯インド、西太平洋）、コタマガイ（分布は北海道南部から九州、朝鮮半島）リュウキュウマスオ（分布相撲湾以南）フジノハナガイ（分布は房総半島以南）、カリガネエガイ（分布は北海道以南）、キバアマガイ、クチムラサキサンゴヤドカリ、タイワンタマキビ、イワガキ、ゴマフニナ、シマレイシダマシ、テツレイシ、マダライモ、ヒザラガイ、カスリコウシツブ、チゴアシヤなどの貝類を見つけることができました。

研究のためにとった撮った映像では、砂浜一面に小さな穴があってそこにはカニたちがいっぱいいることが、とてもよくわかります。

僕が調べた結果、海に近いところに貝やカニが思ったより、少なかったです。そのところは驚きました。でも、僕はちょっと間違えたことに気付きました。それはぼくが海の近くと、いる場所は通常は海の中だったのです。僕が行ったのは、潮が引いているとき、つまり今いるところが、本当の海（引いていないとき）のどの部分なのかはつきりとわからないのです。しかし、泡瀬干潟は、そんな細かいことを調べなくても引いたところを見れば、生き物がたくさんいることがわかります。生きています。掘れば出てくるし、地上では、貝殻がたくさん転がっています。カニだってよく見たらいっぱいいます。こういうものは、海水浴場では見れないと思います。だから、泡瀬干潟は、生き物もいるとてもいい海だと思います。

4. 考察

結果からわかったことは、泡瀬干潟には、貝やカニなどたくさんの生き物たちが生息していることです。新しく疑問に思ったことは、その調べた生き物たちのすみかや春夏秋冬の過ごし方を調べてみたいと思いました。さっきいったように僕は少し勘違いをしていました。だから今度は通常の状態の泡瀬干潟を調べてみたいです。

今後の目標は、沖縄に生息している1つの生き物を研究対象として具体的な研究ができるようにしていきたいと思います。